

平成 21 年度後期「技術講演会」等の開催

本号では、技術講演会を中心に報告いたします。

1. オホーツク技術士会役員会

日時：2009年（平成21年）10月14日（水）

午後0時00分～午後1時00分

場所：ホテルベルクラシック北見（北見市）

出席者：計7名

協議内容：平成21年度後期事業計画案について

2. 平成 21 年度後期「技術講演会」

日時：2009年（平成21年）12月9日（水）

午後3時00分～午後5時30分

会場：ホテル黒部（北見市）

参加人数：77名

開催プログラム

基調講演

演題：「オホーツク地域の公共事業と技術者のあり方」

講師：北海道開発局網走開発建設部長

小笠原 章 氏

講演-1

演題：「第一次産業の工業化で地域型産業創出へ」

講師：北見工業大学地域共同研究センター教授

有田 敏彦 氏

講演-2

演題：「建設系公共事業の投資効果の評価について」

講師：北見工業大学社会環境工学科教授

オホーツク技術士会代表幹事 大島 俊之 氏

○小笠原氏の講演要旨

「地球環境時代を先導する新たな北海道総合開発計画」に基づく戦略目標及び主要施策を示され、今後地域の個性・特性を活かし自立的安定経済を目指す①食・観光産業、②地球環境時代に対応する持続可能な地域社会の実現等、主要施策を解説された。また、主要施策を実現する上での多様な連携・協働のもとでの投資の重点化を示された。

オホーツクの地域づくりについては、「オホーツク地域づくり連携会議」の方針のもと、開発局が実施している今年度の主な事業を紹介した。主に食料供給力・競争力強化プロジェクトのもとで農水産物生産性の維持・向上を図る事業内容。また、観光交流推進プロジェクト、広域形成ネットワーク形成プロジェクト、安全・安心・快適地域づくり、環境保全プロジェクト等の事業内容を紹介した。

後半部は、「信頼される技術者であるために」とのテーマで、技術者倫理及び技術力を兼ね備えた技術者であるための倫理行動規準、土木学会の倫理規定、「良質な社会資本整備と土木技術者に関する提言」等を引用し、あるべき技術者像を示された。

○有田氏の講演要旨

北見工業大学の地域連携機能の一元化を図り産学連携体制の推進を行っている「地域連携・研究戦略室」の紹介を行った。産学連携体制での地域貢献体制の充実・強化策として、道東の他大学と連携した人材育成事業、地域再生を目指し地域施策への提言、地元連携として産学官連携推進協議会の取組、包括連携一環としての金融機関と連携体制の構築等を紹介した。また、学内的対応では、札幌・東京サテライトへのコーディネータ配置、域外イベントによる情報発信、学内ベンチャー連携による事業化等の取組を紹介した。

北見都市圏産業振興ビジョン（経済産業省）では、主に、第一次産業の工業化、広域連携による観光産業振興等が、示されているが、北見工業大学の役割として、①学科構成の検討（地域密着型）、②人材育成事業の実施、③留学生生活用（観光）等の実施・検討状況を報告した。この中で中核人材の育成事業として、「第一次産業の工業化と寒冷地対応技術に関連した金属材料加工における中核人材の育成事業」（経

済産業省)、及び「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン」(文部科学省科学技術振興調整費)の内容を紹介した。

○大島氏の講演要旨

財政制約下における社会資本システムの更新、維持管理投資推移予測を示し、今後の維持管理投資の増大化予測を示した。また、アメリカのメネアポリスの橋梁崩壊事故を教訓に、社会資本の適正な維持管理の重要性を示した。橋梁を例として、経年による補修シミュレーションを示し、予防保全型、事後保全型、更新型の累積補修費の比較を示した。この結果、予防保全シナリオが有効であることを解説し、併せて適正な維持管理水準及び適正な補修時期の設定の必要性を示した。

後半部は、地域における道路の役割について解説した。道路に関しては、観点項目として①基線アクセス道路、②地域産業輸送道路、③地域生活振興道路に分類し、道路の役割を重み付け点数化・評価した事例を紹介した。また、迂回路とは、対象橋梁が通行不能となった場合に通常路と同等の役割を果たす経路を指すが、災害時の道路迂回の経済的損出も示した。

公共事業評価の費用便益(B/C)について、社会資本の予防保全を採用する場合には、B/Cを高めることができるので、維持管理を実施する際、説明責任を果たすうえで有効となる点を解説した。

○書籍発刊のお知らせ(講演内容をより詳細に解説)

大島俊之／編著、森北出版

実践建設系アセットマネジメント

— 補修事業計画の立て方と進め方 — 森北出版



写真 挨拶 大島代表幹事(左) 島田副代表幹事(右)

◎技術講演会終了後、情報交換会の開催

開催時：午後5時40分～午後7時40分

場所：ホテル黒部(北見市)

出席者：計23名

技術講演会終了後、情報交換会が行われた。島田副代表幹事の挨拶を皮切りに、大島代表幹事の書籍出版祝いも兼ねて行われた。



写真 小笠原部長による締めの乾杯(情報交換会)

3. その他

寒地土木研究所第4回技術者交流フォーラム in 北見

日時：2009年(平成21年)10月14日(水)

午後1時30分～午後5時20分

場所：ホテルベルクラシック北見(北見市)、

主催：(独)土木研究所寒地土木研究所道北支所

共催：オホーツク技術士会他

参加人数：約170名

共通テーマ

「オホーツク地域の自然環境と共生する寒冷地技術」

基調講演1件及び、個別講演(計：5件)が行われた。

技術士会からは、オホーツク地域より発信する技術開発について2件、講演頂いた。

日東建設(株)久保元社長は、「コンクリートテスター(CTS)の研究開発」の演題で、コンクリート構造物の強度診断に用いるコンクリートテスターを開発し、市販しているこれまでの研究・開発の経緯を報告された。また、今後も、社会資本の安全性確保と信頼性の向上のため継続した研究開発の取組を訴えた。

斜里建設工業(株)土田好起社長は、「世界自然遺産・知床での人と自然の共生」の演題で、斜里町知床峠での除雪作業を安全に行うためのGPS施工システムの研究・開発について紹介した。また、知床世界遺産保全を図り、エゾシカの個体数の適正化を目指す、エゾシカ事業の報告もされた。

(文責：オホーツク技術士会幹事 岡田 包儀)